

月曜日の朝

幼稚園の頃、日曜日の夜、制服とカバンを枕元に置いて、早く夜が明けれることを祈った。月曜日になったら、幼稚園に行つて、きのう公園で見つけた変わった木の話をしてあげよう……。みんなきつと、ワッーと驚くだろう。などと思っていると、ちょっと時間が進まずに、何度も何度も、目を開けて、窓の外を見ては、一向に、明るくならない暗闇にいらつた。

小学校、中学、高校、大学と進むうちに、待ち遠しかった月曜日の朝は、できることなら来ないでほしいものになつていった。社会に出てからは、恨み事さえ言いたくなる月曜日の朝となつた。昔から全く同じ月曜日の朝なのに、あの心踊るような待ち

遠しきは、何だったんだろう。生きることのすべてを、楽しさの中に投入できたからだろうか。幼稚園の生活は、全身を使い、全知識をふりしぼらなければ展開されない。だからこそ、毎日、楽しかったのだ。毎日へとへとになるまで、真剣に生きていた。今日の次には、また別の新しい明日が、訪れる。それが楽しみでたまらなかつた。あのドキドキする感覚、どこに行つてしまつたんだろう。

(T・O)